



書評) 『がんの治療と暮らしのサポート実践ガイド -通院・在宅治療の継続を支える-』

患者さんが日常生活を送る上で最も困難に感じる点が網羅され、読者一人ひとりが悩みに合致する答えを見つけられる手引書。

評者) 埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科
教授 大西 秀樹

編集：NPO 法人キャンサーリボンズ
発行：株式会社エス・エム・エス
定価：2000 円（税別）

本年 2 月、NPO 法人キャンサーリボンズより『がんの治療と暮らしのサポート実践ガイド-通院・在宅治療の継続を支える-』が上梓された。非常に役に立つ本である。

がん患者さんは治療と家庭、仕事、実存面における両立の問題に直面し苦しんでいる。これらは各々が重大な問題であり、早急な解決が必要である。そのためには、様々な情報収集が必要だが、最も良いのは良心的で分かりやすい手引書であろう。よい情報を得ることで闘病や看病の見通しが立ち、気持ち安定し、医療者との会話も現実に即したものとなる。しかし、これら問題に具体的な回答を与える本はほとんど見当たらない。がんになって混乱のさなかにいる患者さん、ご家族にとって良い状況とは言えなかった。そのような現状を踏まえてこの本が出ることになったのだと思う。

本書は副題で「通院・在宅治療の継続を支える」とあるように、がん治療と生活を結びつけ、かつ両立させるための具体的な方法を導いてくれる。内容は 5 つに分かれ、I 暮らしをサポートする、II 暮らしのシーン別にサポートする、III 治療と暮らしをつなぐ、IV 役立つ資源を知る・活用する、V ところをみる・ところを支える、と、生活重視の構成になっている。執筆陣はその分野の第一線で活躍している専門家である。各項目は数ページで図が多く用いられているので、混乱の中にいる患者さん、ご家族にもわかりやすい。

特筆すべき点は、患者さんが日常生活を送るうえで最も困難に感じる点が選ばれて、分かりやすく書かれている事である。これは、臨床の現場で患者さんの声に真摯に耳を傾け、問題点に答えてきたからこそ出てきた項目と回答なのだろう。

この本は通読するのもよいが、読者が問題としている点を探して勉強するのが良い。主だった点が網羅してあるので、読者の悩みに合致する点が必ず見つかると思う。この素晴らしい本を企画、作成したキャンサーリボンズの方々に敬意を表したい。

この本で救われる患者さん、ご家族は数多くいる。まずは医療スタッフやサポーターに読んでいただきたい。そして、がんになって悩んでいる患者さん、ご家族に薦めてほしい。また、病院の図書室に必ず置くべき一冊だと思う。

<大西秀樹先生プロフィール>

精神腫瘍医。埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科教授。
1986 年、横浜市立大学医学部卒業。横浜市立大学医学部講師、
神奈川県立がんセンター精神科部長を経て、2006 年、埼玉医科大学精神腫瘍科教授に就任、現在に至る。がん患者さんと家族の精神的ケアを専門とし、「遺族外来」に取組む。著書・講演多数。

